

蒼天に伸びる 青竹

月刊
**お
お
む
ら**

祁答院町下手2396-1

大村地区コミュニティ協議会

明けて一月九日に開催される鬼火焚きのやぐら組みを十九日、土曜日に行いました。今年も、例年にも増してすばらしい出来栄です。
当日は、財産管理委員による河川の除草作業も併せて行われ、総勢二十二名の会員が集い、作業は昼過ぎに終了しました。
本番の前に、やぐらを見物に行かれてみては如何でしょうか。

- ・祁答院町の世帯数 1,818世帯
- ・大村の世帯数 362世帯
- ・祁答院町の人口
 - 男 1,754人
 - 女 2,071人
 - 合計 3,825人
- ・大村の人口
 - 男 380人
 - 女 423人
 - 合計 803人

27年5月 現在



産土講

=12月18日(金)=



年の瀬になると、あちこちの神社で神事が行われる。
▲「しゃいも来て呉れ」と請われて訪れたのは、毎年一月一八日に行われる妙見神社の定例祭遅刻をして祭神のアミノミナカヌシノカミには逢えずじまい。
しかし、この後、荒毛、宇ケ石、棧敷段、友ノ口の四つの集落で産土講が始まると言う。
▲オブスナコウと発音するそうオブスナはウブスナが転訛し

たものだが、我が産土のあめつちの五穀豊穡に感謝し、山海の恵みを供物として氏神に奉納する神事。
▲誘われるままに友ノ口の氏子宅に上がり込み、様子を見てみると雪肌を思わせる三寸ほどの直径の”桑(しとぎ)”が赤飯のうえに鎮座するこれまで見たこともない光景を目の当たりにし、幼い頃食べた桑のざらつく感触を思い出す

と同時に一〇〇年はゆうに越える産土神の存在を、改めて身近に居わすと実感した。
▲神事は、祭主がひれ伏しながら”おーっ”という神の呼びわりに始まる祝詞に宝くじの当選祈願が挿入されており、氏子の中から鳩のような含み笑いが広がり、直会も和やかな雰囲気です。その日もとつぷりと暮れ、オダを上げて二日酔いになったのは言うまでもない。

